

ネポン 業務用・油だき温水ボイラ ヒートロイック

ON - 313 15 / 16

ON - 313F 15 / 16

お客様へ

このたびはネポン製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

この商品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前にこの「取扱説明書」をよくお読みになり、十分に理解してください。

お読みになった後は、手元においてご使用ください。

工事をされる方へ

工事を始める前に、必ず別冊の「工事説明書」をお読みください。

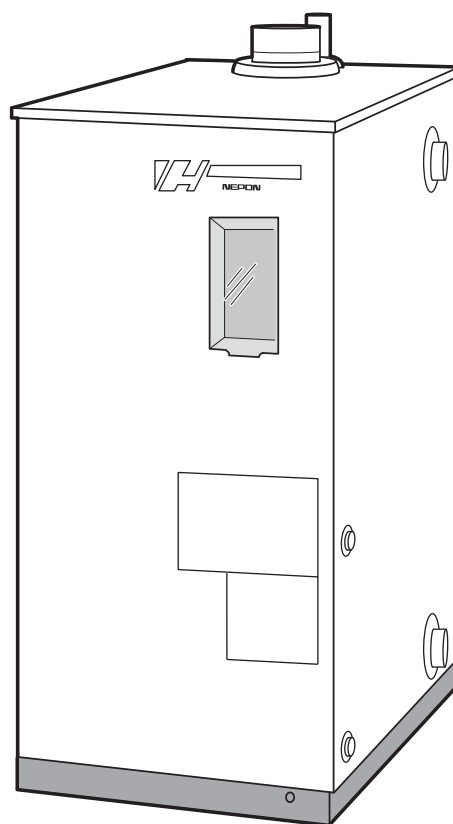
工事完了後、必ずこの「取扱説明書」をお客様にお渡しください。

製品保証

「保証書」はこの「取扱説明書」と同封してあります。

「取扱説明書」とともに、大切に保管しておいてください。

- ◎この製品は日本国内専用です。国外では使用しないでください。
- ◎この製品は給湯・暖房・昇温用です。他の用途には使用しないでください。



もくじ

① 安全上のご注意	4
② 製品型式記号と意味	8
③ 各部のなまえとはたらき	9
3-1 外観図	9
3-2 構造図	10
3-3 リモコン（操作部取り付け）	10
3-4 銘板	11
3-5 システム	12
④ 使用前の準備	13
4-1 燃料	13
4-2 給油	14
4-3 油配管のエア抜き	15
4-4 給水	15
⑤ 運転前の確認	16
5-1 水平の確認	16
5-2 水量の確認	16
5-3 水漏れの確認	16
5-4 電源の確認	17
5-5 排気筒・排気トップ・給気筒接続口の確認	17
5-6 アース線の確認	17
5-7 オイルタンクおよび油配管の確認	18
⑥ 使用方法	19
6-1 給湯運転・暖房運転	19
6-2 停電発生時の処置	21
6-3 凍結予防のしかた	21
⑦ 安全装置	22
7-1 安全装置	22
7-2 その他の装置	22
⑧ 日常の点検・お手入れ	23
8-1 機器異常の確認	23
8-2 毎日の点検・お手入れ	24
8-3 月に1～2回の点検・お手入れ	24
8-4 6カ月に1～2回の点検・お手入れ	25
⑨ 長期間使用しないときのお手入れ	26
9-1 凍結予防のしかた	26
⑩ 定期点検	28
10-1 定期点検について	28
⑪ 法定点検	29
⑫ 故障・異常の見分けかたと処置方法	33
12-1 故障診断（状況から調べる）	33
12-2 次のようなときは故障ではありません	34
12-3 故障診断一覧表	35

13	部品交換のしかた	36
14	仕様	37
	14-1 仕様	37
	14-2 配線図	38
	14-3 送油経路図	38
15	アフターサービス	39
	15-1 保証について	39
	15-2 補修用性能部品の保有期間	39
	15-3 修理を依頼される時	39
16	据え付け工事の確認	40
	16-1 据え付け工事の確認	40
17	移設・廃棄・譲渡	42
■	保証書	43

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。
- 表示と意味は、次のようになっています。

警告 (WARNING)

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意 (CAUTION)

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負ったり、物的損害※の発生が想定される内容を示します。

※物的損害とは、業務用施設や栽培物および動植物にかかわる拡大損害を意味します。

- 図記号の意味は、次のようになっています。



回転注意

△は、注意（危険、警告を含む）を示します。
具体的な注意内容は、△の中や近くに絵や文章で示します。
左図の場合は「回転注意」を示します。



分解禁止

⊘は、禁止（してはいけないこと）を示します。
具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示します。
左図の場合は「分解禁止」を示します。



アース工事を
すること


●は、強制（必ずすること）を示します。
具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。
左図の場合は「アース工事をすること」を示します。


ネポン指定以外の部品などの取り付けについて


ネポン指定以外の部品などの取り付けおよび使用は、製品の性能を損ねる改造行為となります。


改造行為を行った場合、当社は保証期間内でも製品に関する一切の責任は負いません。
ネポン指定以外の部品などの使用による事故、機器の故障およびその他のトラブルなどは、すべてお客様の責任の範囲で処置いただくこととなります。


警告 (WARNING)

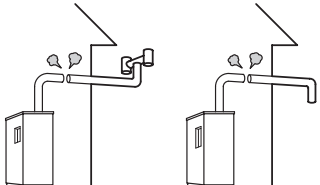
 ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しない
爆発や火災のおそれがあります。
ガソリン 厳禁


 給湯・暖房・昇温以外の用途で使用しない
故障や事故のおそれがあります。
転用禁止

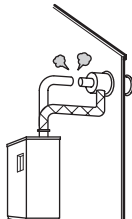
 燃料は灯油 (JIS1号灯油) を必ず使用する
火災や故障のおそれがあります。
指定燃料 使用


 移設する場合は、必ずお買い上げの販売店、またはお近くのネボン営業所へ依頼する
移動工事はお客様ご自身では行わないでください。
不備があると感電や火災のおそれがあります。

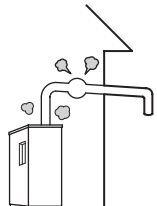
 排気筒 (煙突) が外れたままで使用しない
運転中に排ガスが屋内に漏れて危険です。
排気筒 外れ危険




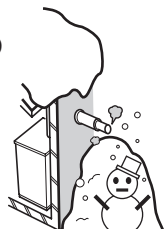
 給排気筒 (管・ホース) が外れたままで使用しない
運転中に排ガスが屋内に漏れて危険です。
給排気筒 外れ危険




 排気筒がつまったりふさがれたままで使用しない
閉そくしていると、運転中に排ガスが屋内に漏れて危険です。
排気筒の 閉そく危険




 給排気筒や燃焼用空気取り入れ口が雪でふさがれたままで使用しない
不完全燃焼や故障のおそれがあります。
給排気筒 トップ 閉そく危険



注意 (CAUTION)

 燃焼中や消火直後は、高温部・排気筒に手など触れない
やけどのおそれがあります。
高温部 接触禁止

 シャワーを使用する場合や入浴するときは、温度を確かめてから使用する
やけどのおそれがあります。
高温注意

⚠ 注意 (CAUTION)



可燃物
近接禁止

機器の周辺に可燃物を近づけない

火災のおそれがあります。



危険物
近接禁止

機器の周辺に危険物を近づけない

火災や爆発のおそれがあります。



囲い禁止

機器や排気口を波板などで囲わない

不完全燃焼や火災のおそれがあります。



分解修理・
改造の禁止

分解・修理・改造はしない

ご自分で修理などを行い、使用されますと事故のおそれがあります。



異常・故障時
使用禁止

異常（異音・異臭）を感じたときや故障と思われるときは使用を中止し、お買い上げの販売店またはお近くのネボン営業所に連絡する

異常のまま使用すると感電や火災、事故のおそれがあります。



電源コード
を傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、物を乗せたりしない

火災や感電のおそれがあります。



コードでの
引き抜き
禁止

電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かない

火災や感電のおそれがあります。



電源プラグ
は確実に
差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

火災のおそれがあります。



電源プラグ
を抜く

長期間使用しないときは電源プラグを抜く

火災や予想しない事故のおそれがあります。



電源プラグ
のお手入れ
をする

ときどきは電源プラグを抜き、ほこりを除去する

発火や火災のおそれがあります。



不良灯油
使用禁止

変質灯油や不純灯油などの不良灯油は使用しない

燃焼不良のおそれがあります。





不良
コンセント
使用禁止


傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しない


火災のおそれがあります。


⚠ 注意 (CAUTION)


 水は水道法に規定された水質基準に適合する水を使用する
水道法以外の水の使用禁止
故障や水漏れのおそれがあります。


 めれた手で、スイッチなどを操作しない
めれた手禁止
感電のおそれがあります。


 油漏れがある場合は機器の使用を中止し、お買い上げの販売店またはお近くのネポン営業所に連絡する
油漏れ時使用禁止
火災や公害のおそれがあります。


 機器本体、燃料接続口や排気口などに乗らない
機器への乗降禁止
けがや機器の変形による故障のおそれがあります。


 飲料用として使用しない
飲料用使用禁止
ひふ障害や、下痢・腹痛など体をこわすおそれがあります。


 日常の点検・お手入れは必ず行う
定期点検
機器が故障するおそれがあります。


 めれた手で、電源プラグに触らない
めれた手禁止
感電のおそれがあります。

 油漏れがないことを確認する
油漏れ確認
火災や公害のおそれがあります。

 ゴム製送油管の点検・交換をする
ゴム製送油管の点検・交換
ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがない場合でも2～3年に1度は新しいものに交換することをおすすめします。交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。

 高湿度の場所では使用しない
高湿度使用禁止
本体や機器内部がぬれたり、結露するような高湿度状態で使用すると、漏電するおそれがあります。

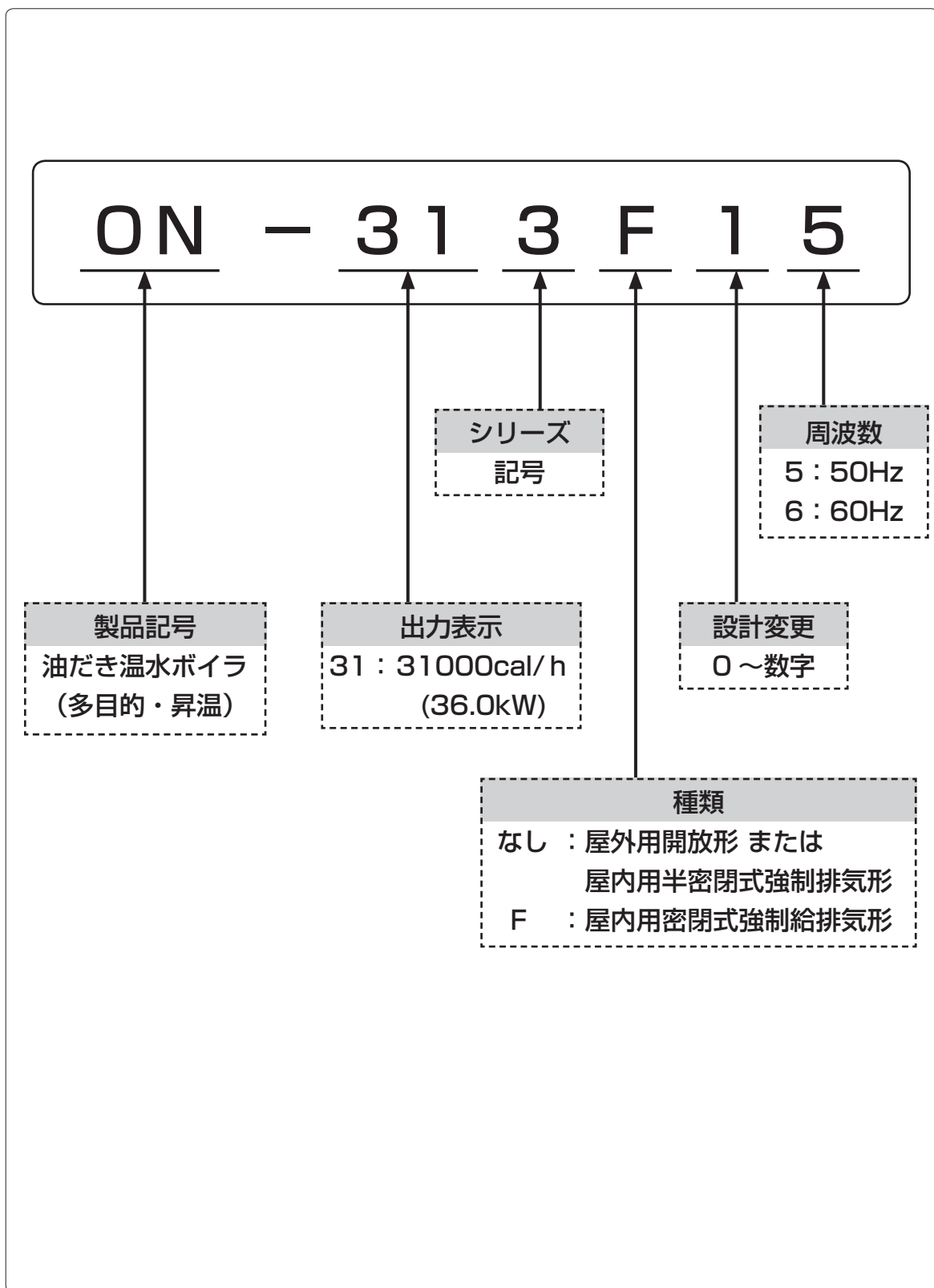
 機器の水抜きをするときは、機器が冷えてから行う
水抜き注意
やけどのおそれがあります。

 点検や掃除をするときは、機器を停止させ、電源プラグを抜き、送油バルブを閉じる
電源プラグを抜く
けがや感電のおそれがあります。

製品型式記号と意味

■お買い上げいただいた油だき温水ボイラの型式は、以下のような意味を表しています。

- 取扱説明書の中で、型式の違いにより説明内容が異なる場合があります。
- 製品に貼り付けてある主銘板をご覧になり、該当する機種をご確認ください。



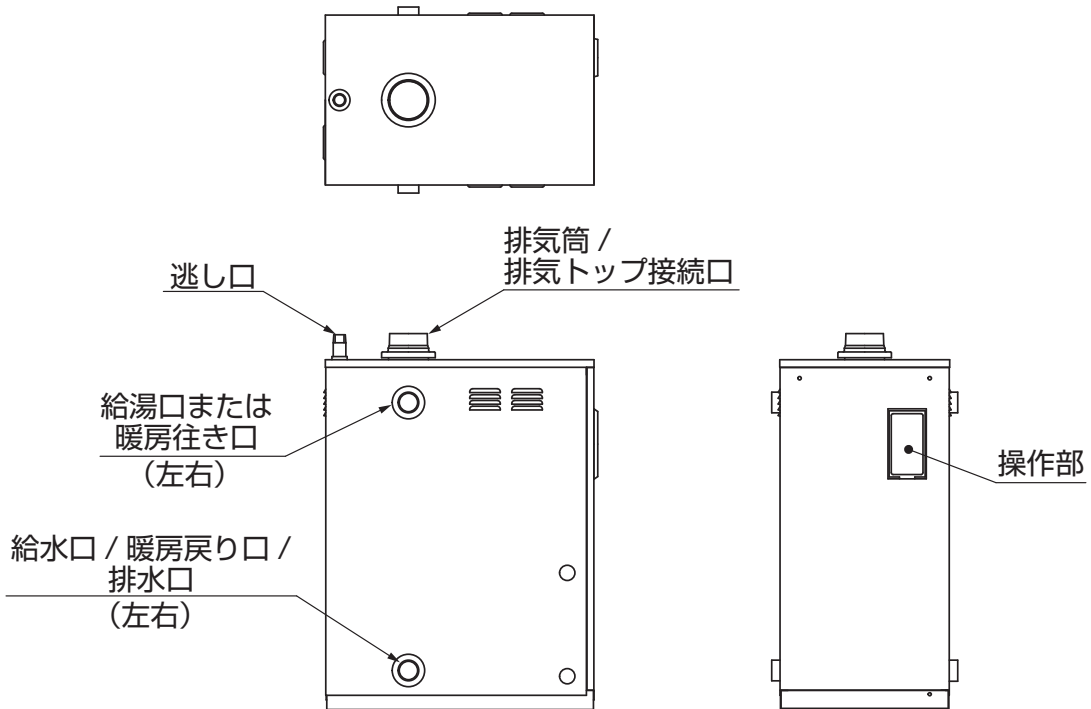
各部のなまえとはたらき

■この機器は、灯油を燃焼させお湯を沸かす機器です。

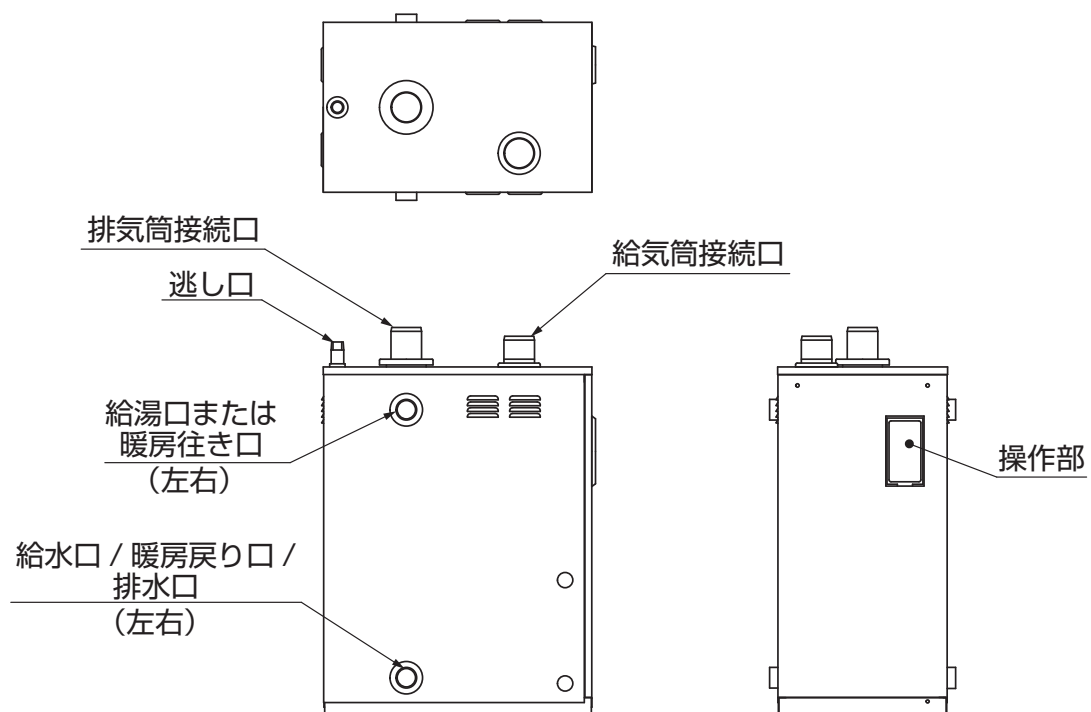
3-1 外観図

外
観
図

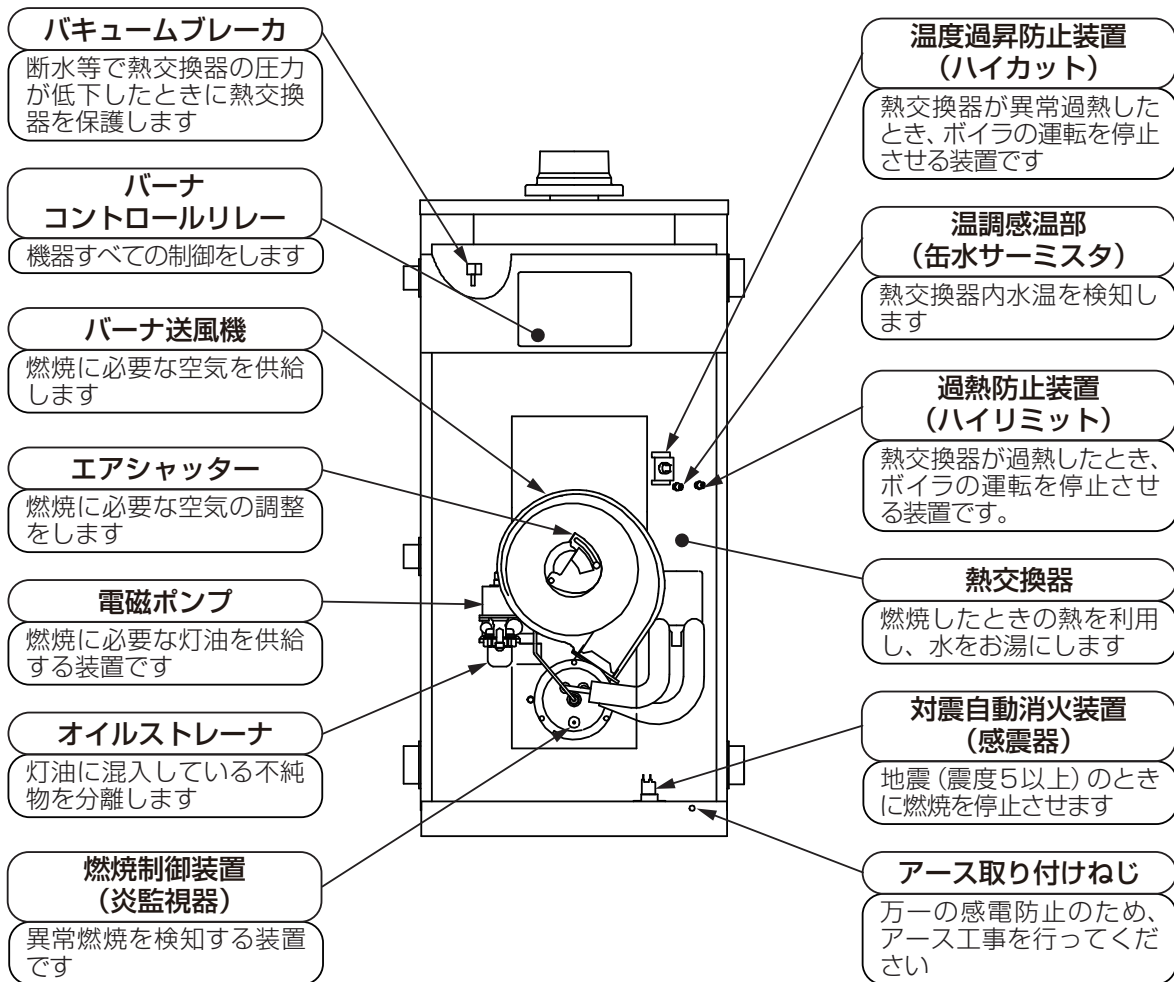
ON-313 (屋外用開放形 / 屋内用半密閉式強制排気形)



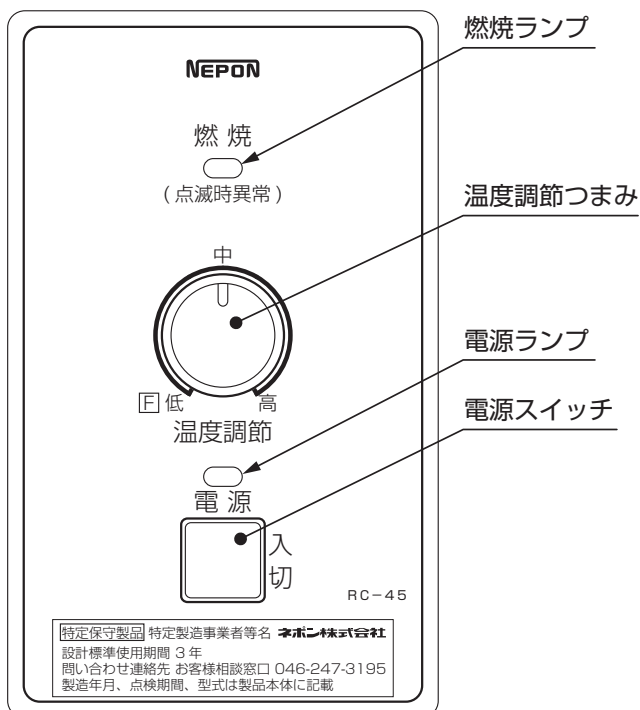
ON-313F (屋内用密閉式強制給排気形)



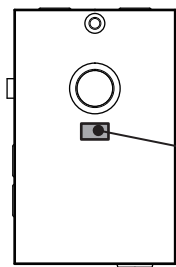
3-2 構造図



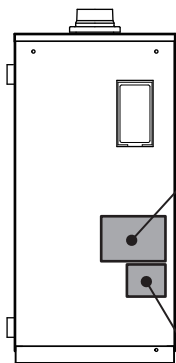
3-3 リモコン (操作部取り付け)



3-4 銘板



上面



前面

警告、注意銘板

安全に関する重要な内容について貼り付けています

安全注意ラベル

<p>接触禁止</p>	<p>△ 注意</p> <p>やけどのおそれあり 燃焼中や燃焼停止直後は 排気口付近に手をふれな いこと。</p>
-------------	---

安全注意ラベル

<p>△ 警告</p> <p> この商品を安全に正しく使用していただくために、お使いになる前に付属の「取扱説明書」をよくお読みになり、十分に理解してください。</p> <p>よく読む</p>	<p>お客様にお願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 万一異常を感じたとき 万一異常を感じたり、緊急の場合はあわてずに消火してください。 (電源プラグを抜き、送油バルブを閉めてください。) ・ 凍結の注意 凍結により熱交換器が破壊されることがありますので十分注意してください。 ・ 定期点検 一年に一回の「定期点検」をおすすめします。
<p> ガソリンなど揮発性の高い油は、使用しないこと 火災のおそれがあります。</p> <p>ガソリン厳禁</p>	<p>運転及び停止のしかた</p> <p>運転 給湯リモコンの電源スイッチ [入切] を押し、電源ランプを点灯させてください。 運転を開始します。</p> <p>停止 給湯リモコンの電源スイッチ [入切] を押し、電源ランプを消灯させてください。 運転を停止します</p>
<p> 排気筒、給排気筒(管ホース)が正しく接続されていること外れたりしていると運転中に排ガスが室内に漏れ危険です。</p> <p>外れ危険</p>	

主銘板

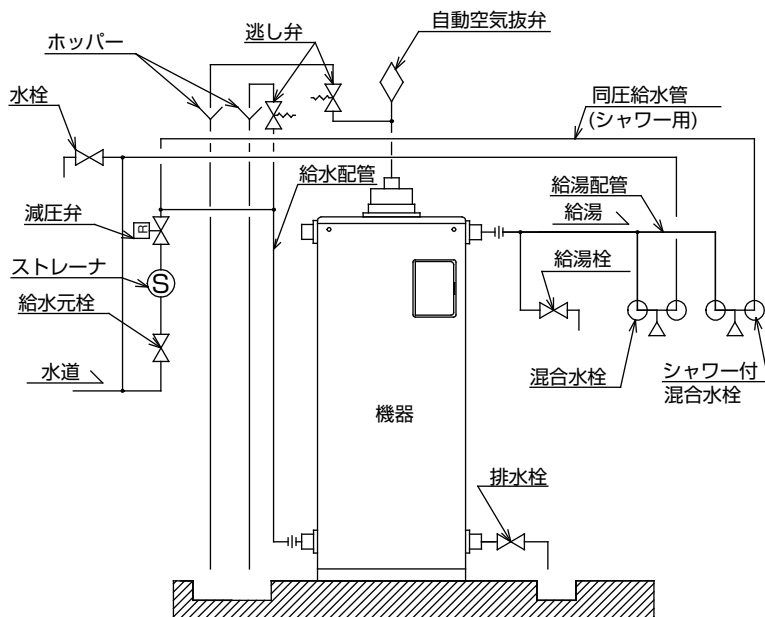
製品の型式、製造番号などを記載しています
 →8ページ「2. 製品型式記号と意味」

お願い

- 本体に貼り付けてある銘板がはがれたり、文字が消えたりした場合は、お買い上げの販売店より購入していただき、貼り替えてください。

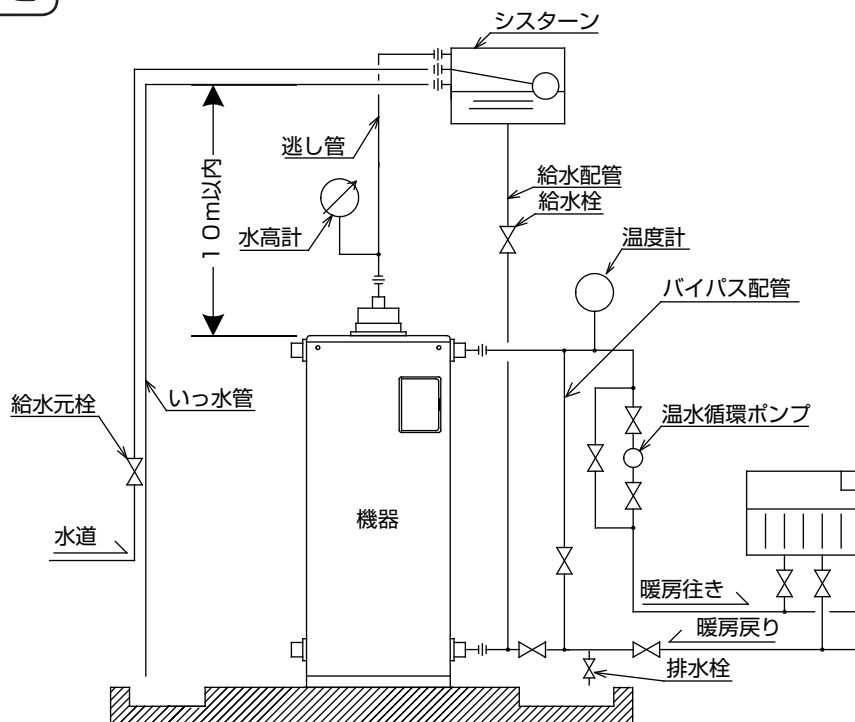
3-5 システム

給湯のとき



◎必ず減圧弁、逃し弁を取り付けてください。

暖房のとき



◎暖房配管には、シスターンを使用してください。

減圧弁・・・水道水の圧力を78.4kPa(0.8kgf/cm²)以下にして機器に給水します。
 逃し弁・・・機器内の水が加熱され、膨張した分だけ機器内の水を逃します。
 自動空気抜弁・・・機器内にたまった空気を逃します。

4-1 燃料

**警告**

- ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください
爆発や火災のおそれがあります。
- 燃料は灯油（JIS1号灯油）を必ず使用してください
火災や故障のおそれがあります。

**注意**

- 変質灯油や不純灯油などの不良灯油は使用しないでください
燃焼不良のおそれがあります。

不良灯油とは

■「不良灯油」とは、下記のような灯油のことです。このような灯油は絶対に使用しないでください。

● 変質灯油

- ・ 昨シーズンより持ち越した灯油
- ・ 温度の高い場所で保管した灯油
- ・ 日光の当たる場所で保管した灯油

● 不純灯油

- ・ 水やごみなどが混入した灯油
- ・ ガソリン、軽油、シンナー、天ぷら油、機械油などが混入した灯油
- ・ 灯油以外の油を入れたことのある容器に保管した灯油
- ・ 水抜剤や助燃剤を添加した灯油

正しい灯油の保管方法

■灯油は下記に従い、正しく保管してください。

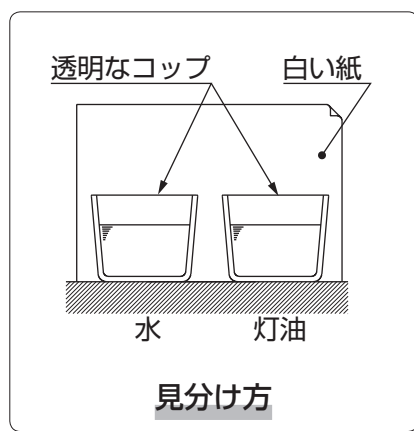
- 屋外オイルタンクは使用量に見合う容量の油タンクを選び、日の当たらない北側などに設置することをおすすめします。
- オイルタンク内の水抜きをしてください。
→24 ページ「8-3 月に1～2回の点検・お手入れ」の「①オイルタンクの水抜き」参照



不良灯油の見分け方

- まず初めに、13 ページ「正しい灯油の保管方法」に従って、正しい保管状態であったか確認してください。
- 次に色で見分ける方法があります。以下の方法で見分けてください。

- ① 2つの透明なコップを用意し、片方に水・もう片方に灯油を入れます。
- ② 2つのコップの背後に白い紙を当て、色を比較します。
 - 正常な灯油の場合：無色透明です。
 - × 不良灯油の場合：灯油に色がついています。
 - ・ 変質灯油は、うす黄色をおびた色になったり、すっぱい臭いがします。
 - ・ 不純灯油は、水が混入し下に溜まり、灯油と水が分離した状態になります。
 - ・ 保管の状態によっては、着色してなくても灯油が変質している場合があります。



4-2 給油

- 給油をするときは、以下のことに注意してください。

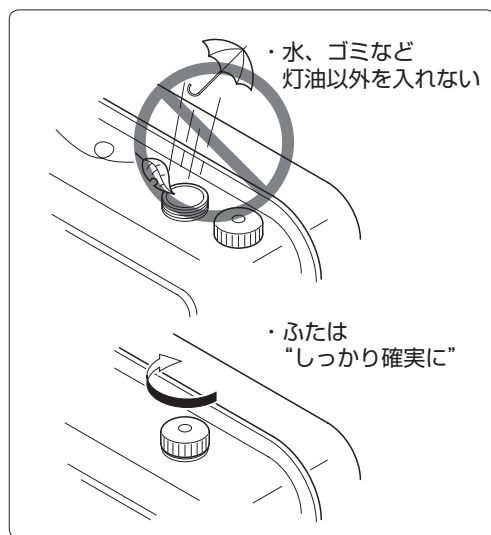
- ① オイルタンクへの給油

給油のとき、水、ゴミなどを入れないように特に注意してください。

水、ゴミなどは、燃焼不良や機器の寿命低下などの原因になります。
- ② 灯油をこぼさない

もしもこぼれたときは、乾いた布でよくふきとってください。
- ③ 給油口ふたは確実に閉める
- ④ オイルタンクを空にしない

空にするとオイルストレーナのエア抜きが必要になります。



4-3 油配管のエア抜き

■試運転のときや、オイルタンクを空にしたときは、オイルストレーナのエア抜きが必要です。以下の手順でエア抜きをしてください。

- ① 送油バルブを開く
オイルタンクに給油し、送油バルブを開いてください。
- ② エア抜きをする
布などをオイルストレーナの下に当て、エア抜きねじをドライバーで緩めてください。
- ③ エア抜きねじを締める
空気が抜け灯油が出てきたら、エア抜きねじをしっかり締めてください。



こぼれた灯油はよくふきとってください。

お願い

- エア抜きを行うときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 空気が抜けても着火しないときは、続けて5回以上の着火動作をしないでください。
このようなときは、お買い上げの販売店または、お近くのネポン営業所へご連絡ください。

4-4 給水



注意

- 水は水道法に規定された水質基準に適合する水を使用してください
事故や水漏れのおそれがあります

■給水元栓を開き、水を入れてください。

■機器を使用しているときは、給水元栓を常に開けておいてください。

5

運転前の確認



注意

- 機器の周辺に可燃物を近づけないでください
火災のおそれがあります。
- 機器の周辺に危険物を近づけないでください
火災や爆発のおそれがあります。

5-1 水平の確認

■ 機器の据え付けが水平であることを確認してください。

- ① 機器の据え付け位置が安定しているか確認
機器が傾いていないか確認してください。

5-2 水量の確認

■ 機器に水が十分に入っていることを確認してください。

- ① 給水元栓、給湯栓を開く
給水元栓、給湯栓の順で開き、給湯栓から水が出ることを確認してください。
- ② 逃し弁を使用している場合
逃し弁のレバーを上げて、逃し管から水が出てくることを確認してください。
- ③ シスターンを使用している場合
シスターンに基準水位まで水が入っていることを確認してください。

5-3 水漏れの確認

■ 配管および機器から水漏れがないか確認してください。

5-4 電源の確認

⚠ 注意

- 電源コードに無理な力を加えたり、物を乗せたりしないでください
火災や感電のおそれがあります。
- 電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください
火災や感電のおそれがあります。
- 電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください
火災のおそれがあります。
- 痛んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください
火災のおそれがあります。
- ぬれた手で、電源プラグに触らないでください
感電のおそれがあります。

■ 電源に異常がないか確認してください。

5-5 排気筒・排気トップ・給気筒接続口の確認

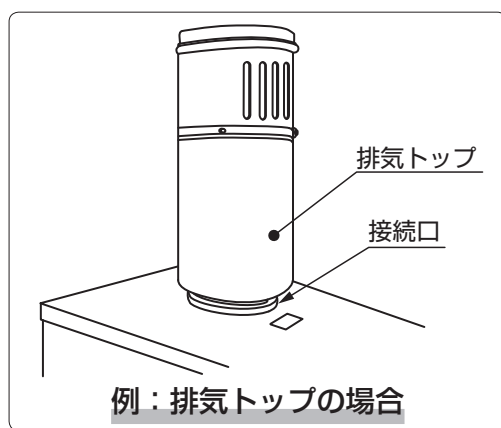
⚠ 警告

- 排気筒・排気トップ・給排気筒が正しく接続されているか確認し
てください
不備があると不完全燃焼をおこすおそれがあります。

■ 機器の排気筒・排気トップ・給気筒接続口とオプション部品がしっかりと接続されているか確認してください。

① 接続されているか確認

排気筒、排気トップ、給排気筒（管、ホース）が正しく接続されていることを確認してください。



5-6 アース線の確認

■ アース線が確実に接続されているか確認してください。

5-7 オイルタンクおよび油配管の確認

**警告**

- 油漏れがないことを確認してください
火災や公害のおそれがあります。
- 油漏れがある場合は機器の使用を中止し、お買い上げの販売店またはお近くのネポン営業所に連絡してください
火災のおそれがあります。

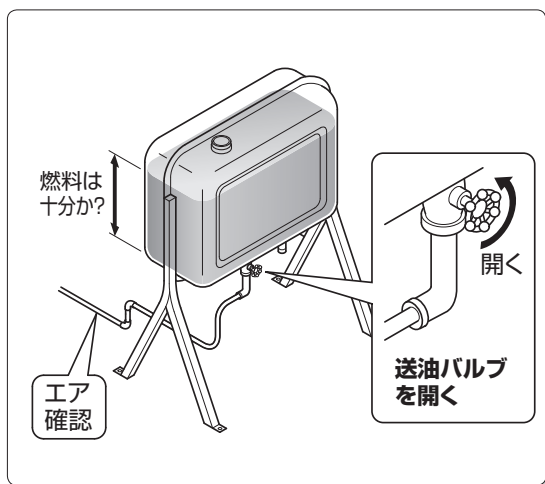
■ オイルタンク、油配管から油漏れがないか確認してください。

オイルタンクの確認

- ① 水抜きバルブが閉じていることを確認する
- ② オイルタンクに燃料が十分に入っているか確認する
燃料がなくなると不着火になります。
オイルタンクの1/3くらいまで減少したら、給油してください。
- ③ オイルタンクの送油バルブを開く

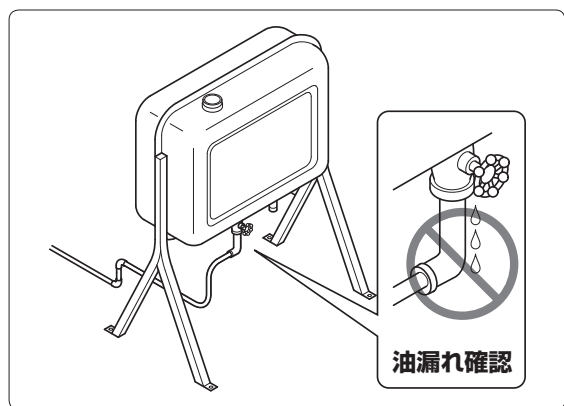
お願い

- オイルタンクを空にしないように注意してください。空のまま運転をすると、油配管中のエア抜きが必要となります。



油配管の確認

- ① 油配管の変形や破損、接合部の外れがないか確認する
- ② 送油バルブを開く
- ③ 油配管中に、油漏れがないことを確認する



⚠ 注意

- 燃焼中や消火直後は、高温部・排気口に手など触れないでくださいやけどのおそれがあります。
- シャワーを使用する場合や入浴するときは、温度を確かめてから使用してくださいやけどのおそれがあります。
- ぬれた手で、スイッチなどを操作しないでください感電のおそれがあります。
- 機器本体、燃料接続口や排気口などに乗らないでくださいけがや機器の変形による故障のおそれがあります。
- 高湿度の場所では使用しないでください本体や機器内部がぬれたり結露したりするような高湿度状態で使用すると、漏電するおそれがあります。
- 飲料用として使用しないでください。ひふ障害や、下痢・腹痛など体をこわすおそれがあります。
- 操作以外は、手を触れないでください感電のおそれがあります。
- 操作部の扉は、運転操作のとき以外は閉めてください。感電のおそれがあります。

6-1 給湯運転・暖房運転

■リモコンで操作します。

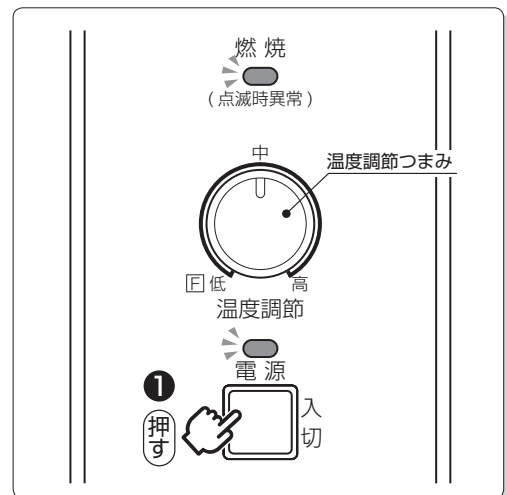
運 転

■以下の手順で運転を開始してください。

①「電源スイッチ」を押す

- 電源ランプが点灯します。
- 約5秒後にバーナが燃焼を開始し、燃焼ランプが点灯します。

熱交換器内の水温が温度調節の設定温度より高いと、バーナは燃焼しません。



お知らせ

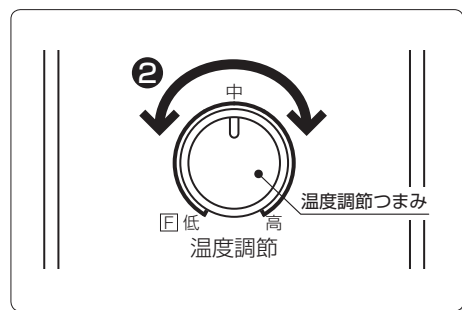
- はじめて通電したときや停電復旧後などは、「電源スイッチ」を押しても燃焼ランプが点滅し、運転を開始できません。これは停電後にはじめて機器を運転することをお知らせする機能です。
➔22 ページ「7-1 安全装置」参照
- このようなときは、機器の安全を確認してから、「電源スイッチ」をゆっくりと2回押して、運転を開始してください。

② 温度調節つまみを回して、熱交換器内の水温を調節する

◎バーナが燃焼・消火を繰り返して調節した温度に保ちます。

■温度調節と沸き上がり温度			
温度調節つまみ位置	低	中	高
沸き上がり温度 (目安)	15℃	55℃	85℃

※上記温度は、目安温度です。



■給湯量と給湯温度				
給湯量 (計算値) 温度調節つまみ:「高」のとき				
給湯温度	水温	5℃ (冬季)	15℃ (春・秋)	25℃ (夏季)
40℃		約14L/分	約20L/分	約30L/分 [※]
50℃		約11L/分	約14L/分	約20L/分
60℃		約9L/分	約11L/分	約14L/分

◎お湯と水を混合したときの計算値です。

◎夏季と冬季では水温に差があり、給湯栓を全開にしたとき、設定した温度に差が生じる場合があります。

この場合、給湯栓を開閉し、温度を調節してください。

◎混合栓で温度を調節するときは、お湯側の水量を一定にして水側で温度を調節してください。

◎沸き上がり温度とお湯の温度は、お湯の使用量により一致しないことがあります。

◎暖房で使用するときには、お使いになる放熱器の説明書も併せてご覧ください。

◎暖房温度は、沸き上がり温度から約5℃を引いた値を目安に温度調節つまみを調節してください。

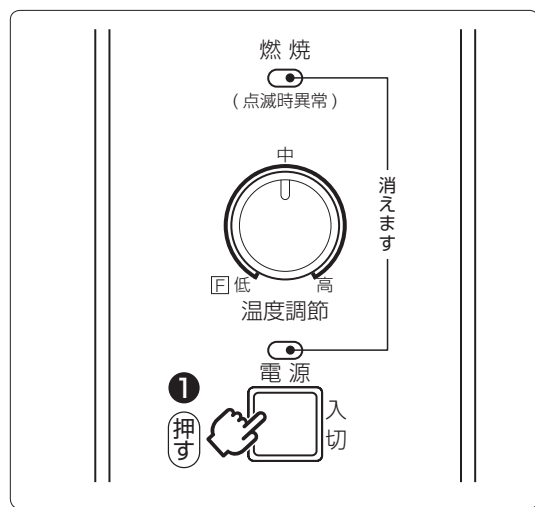
◎※印の給湯量を得るためには、水道元圧が196kPa (2kgf/cm²) 程度が必要です。配管条件によっては得られない場合があります。

停止

■以下の手順で運転を停止してください。

① 「電源スイッチ」を押す

○バーナが消火し、電源ランプと燃焼ランプが消灯します。



6-2 停電発生時の処置

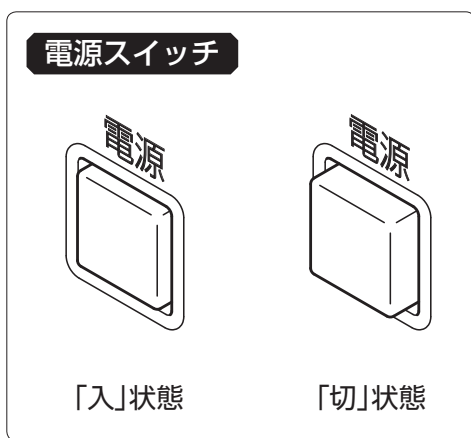
■停電したときは、以下の処置をしてください。

① 運転を中止する

○リモコンの「電源スイッチ」を押して、運転を停止します。(右図：「切」状態)
○再通電するまで使用を中止してください。

② 再通電後、運転を再開する

○機器各部の安全を確認してください。
○再通電後は、「電源スイッチ」を押すと燃焼ランプが点滅し、運転を再開しません。「電源スイッチ」をゆっくりと2回押して、運転を再開してください。
➔22 ページ「7-1 安全装置」参照



お願い

●停電時は自動的に運転を停止し、再通電しても運転を再開しませんが、リモコンの「電源スイッチ」を押して停止させ、再通電されるまで使用を中止してください。

6-3 凍結予防のしかた

■冬季は暖かい地域でも、給水・給湯配管、暖房配管、機器内の水が凍結し、機器が破損することがあります。
詳しい方法は➔26 ページ「9-1 凍結予防のしかた」を参照してください。

安全装置

7-1 安全装置

■この機器は以下のような安全装置を搭載しています。異常が発生したときに作動して、運転を停止させたり、異常内容をお知らせします。

■異常の原因や処置については➡33 ページ「12.故障・異常の見分けかたと処置方法」をご覧ください。

装置名	ランプ表示	原因	対処方法
対震自動 消火装置	燃焼ランプ 3回点滅	<ul style="list-style-type: none"> 地震のとき (約震度5以上) 機器に強い振動 や衝撃をうけた とき 	<ul style="list-style-type: none"> 復帰する前に➡13 ページ「4.使用前の準備」、 16 ページ「5.運転前の確認」の手順で確認 してください。 リモコンの「電源スイッチ」を押して電 源ランプを消灯させ、再度押して電源ラ ンプを点灯させてください。
燃焼制御 装置	燃焼ランプ 1回点滅 または 2回点滅	<ul style="list-style-type: none"> 灯油切れのとき 点火してもすぐ に止まるとき 	<ul style="list-style-type: none"> 灯油切れのときは、オイルタンクに灯油 を入れ➡14 ページ「4-2 給油」の手順で 行ってください。 リモコンの「電源スイッチ」を押して電 源ランプを消灯させ、再度押して電源ラ ンプを点灯させてください。 <p>それでも異常があるときは、お買い上げ の販売店または、お近くのネポン営業所 にご連絡ください。</p>
停電安全 装置	燃焼ランプ 1回点滅 (6秒間隔)	<ul style="list-style-type: none"> 停電のとき 電源プラグが 抜けたとき 	<ul style="list-style-type: none"> 停電すると自動的に運転を停止し、再通 電しても燃焼ランプが6秒間隔で点滅し て、運転を再開しません。再運転する ときは、リモコンの「電源スイッチ」を 押して電源ランプを消灯させ、再度押 して電源ランプを点灯させてください。
過熱防止 装置	燃焼ランプ 4回点滅	<ul style="list-style-type: none"> 熱交換器が過熱 したとき 	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグを抜き、使用を中止してくだ さい。 お買い上げの販売店または、お近くのネ ポン営業所にご連絡ください。

7-2 その他の装置

■異常が発生したときに作動して、運転を停止させる装置です。

装置名	ランプ表示	原因	対処方法
温度過昇 防止装置	燃焼ランプ 5回点滅	<ul style="list-style-type: none"> 熱交換器が異常 に過熱したとき 	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグを抜き、使用を中止してくだ さい。 お買い上げの販売店または、お近くのネ ポン営業所にご連絡ください。

異常時の燃焼ランプ点滅回数とパターンは、➡35 ページ「12-3 故障診断一覧表」を参照してください。



警告

- 排気筒・給排気筒（管・ホース）が正しく接続されているか確認してください
運転中に排ガスが屋内に漏れて危険です。
- 排気筒がつまったりふさがれていないか確認してください
運転中に排ガスが屋内に漏れて危険です。
- 給排気筒や燃焼用空気取り入れ口が雪でふさがれていないか確認してください
不完全燃焼や故障のおそれがあります。



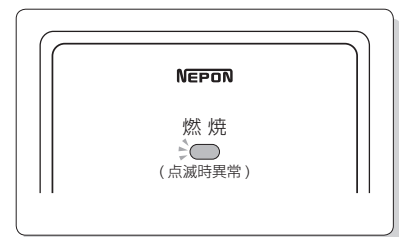
注意

- ときどきは電源プラグを抜き、ほこりを除去してください
発火や火災のおそれがあります。
- 油漏れがないことを確認してください
火災や公害のおそれがあります
- 日常の点検やお手入れは必ず行ってください
機器が故障するおそれがあります。
- 点検や掃除をするときは、機器を停止させ、電源プラグを抜き、送油バルブを閉じてください
けがや感電のおそれがあります。
- ゴム製送油管の点検・交換をしてください
ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがない場合でも2～3年に1度は新しいものに交換することをおすすめします。
交換しないと灯油の漏れにつながり、火災のおそれがあります。

8-1 機器異常の確認

■ 燃焼ランプを確認してください。

- ① 燃焼ランプが点滅していないか確認
リモコンのランプが点滅していないことを確認してください。
- ② 点滅している場合
➔35 ページ「12-3 故障診断一覧表」を参照してください。



お願い

点検・お手入れのときは

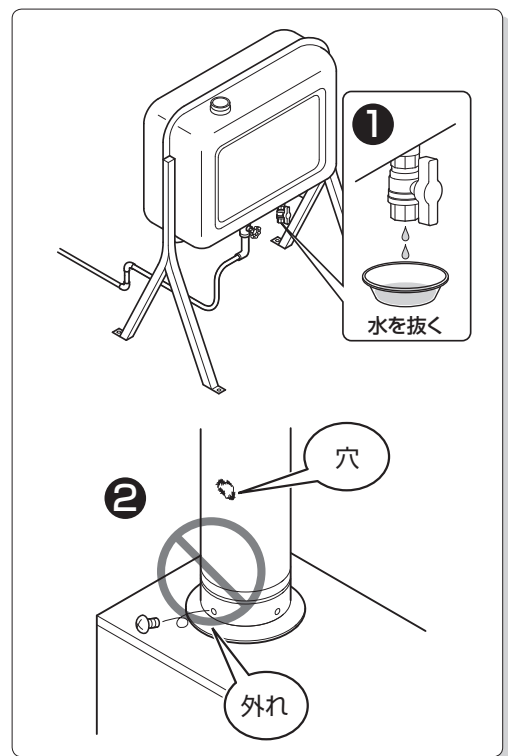
- リモコンの「電源スイッチ」を押して電源ランプを消灯させて、機器が完全に停止してから行ってください。
- 機器が冷えてから行ってください。
- 電源プラグをコンセントから抜いてください。
- オイルタンクの送油バルブを閉めてください。

8-2 毎日の点検・お手入れ

- ① 周囲の可燃物・危険物・ほこり
 - 機器、排気口およびオイルタンクの周囲に燃えやすいものがないか確認してください。
 - 機器は常に清掃し、ほこりなどはきれいにふきとってください。
- ② 油（漏れ・たまり・にじみ）
 - 機器、送油経路、オイルタンクなどから油漏れ、たまり、にじみなどがいないか確認してください。
- ③ ゴム製送油管
 - ゴム製送油管が劣化してひび割れていないか確認してください。
ひび割れは見ただけでは見つけにくいので、手で少し曲げて確認してください。
 - ゴム製送油管を少し曲げてひび割れや亀裂があった場合は交換してください。
ゴム製送油管は時間と共に劣化しますので、ひび割れや亀裂などがなくても2～3年に1度は新しいものに交換することをおすすめします。
- ④ オイルタンク
 - オイルタンクに灯油が1／3以上入っているか確認してください。
 - オイルタンクの送油バルブが開いているか確認してください。
- ⑤ 水漏れ
 - 機器、配管などから水漏れがないか確認してください。
- ⑥ アース
 - アースが確実に取り付けられていることを確認してください。

8-3 月に1～2回の点検・お手入れ

- ① オイルタンクの水抜き
 - オイルタンクの水抜き栓から水を抜いてください。
- ② 排気筒・排気トップ・給排気筒の周囲
 - 排気筒・排気トップ・給排気筒が確実に取り付けられていることや、腐食による穴あきなどがいないか確認してください。



8-4 6カ月に1〜2回の点検・お手入れ



注意

● 機器の水抜きをするときは、機器が冷えてから行ってくださいやけどのおそれがあります。

① 逃し弁の動作確認（減圧弁方式のみ）

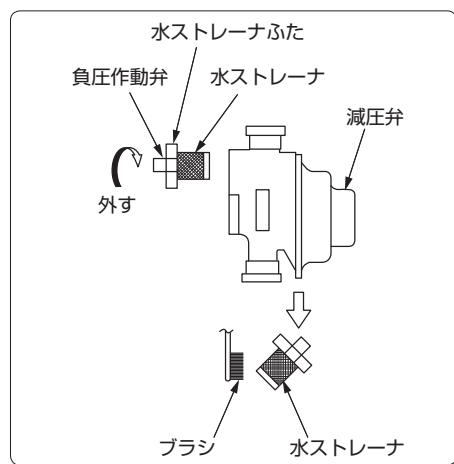
◎ 逃し弁のレバーを上げ排水されることを確認してください。

② 減圧弁の掃除

減圧弁は、水ストレーナを内蔵しています。

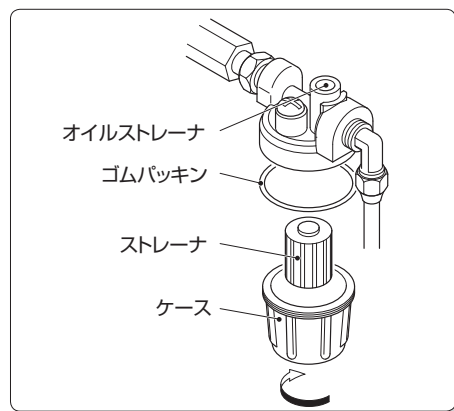
水ストレーナにごみがつまると、お湯の出が悪くなりますので、次の手順で掃除してください。

- ① 給水元栓を閉じてください。
- ② 給湯栓を開き、減圧弁の負圧作動弁を押してください。
- ③ 排水栓を開け、熱交換器および配管内の水を抜いてください。
- ④ 水ストレーナふたを左に回し、水ストレーナを外してください。
- ⑤ 水ストレーナをやわらかいブラシなどで水洗いしてください。
- ⑥ 掃除が終わったら、逆の手順で取り付けてください。
排水栓を閉じ、給水元栓を開けて給湯栓より水が出ることを確認してください。
- ⑦ 水ストレーナふたから水漏れがないか確認してください。



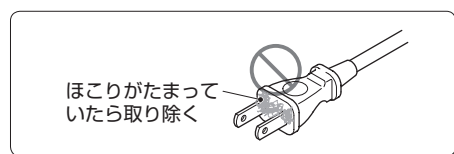
③ オイルストレーナの掃除

- ① オイルタンクの送油バルブを閉じてください。
- ② オイルストレーナのケースを左に回して、ストレーナとケースを外してください。
- ③ ケース内とストレーナを灯油で洗ってください。
- ④ 掃除が終わったら、逆の手順で取り付けてください。
- ⑤ オイルタンクの送油バルブを開け、オイルストレーナから油漏れがないことを確認してください。



④ 電源プラグの掃除

◎ 電源プラグの先端部分の間にほこりが付着していたら、掃除をしてください。



お願い

- 長年ご使用になりますと、機器の点検が必要です。
- 1年に一回の「定期点検」をおすすめします。
→28 ページ「10.定期点検」を参照してください。

長期間使用しないときのお手入れ



注意

- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください
火災や予想しない事故のおそれがあります。
- 電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください
火災や感電のおそれがあります。
- 機器の水抜きをするときは、機器が冷えてから行ってください
やけどのおそれがあります

お願い

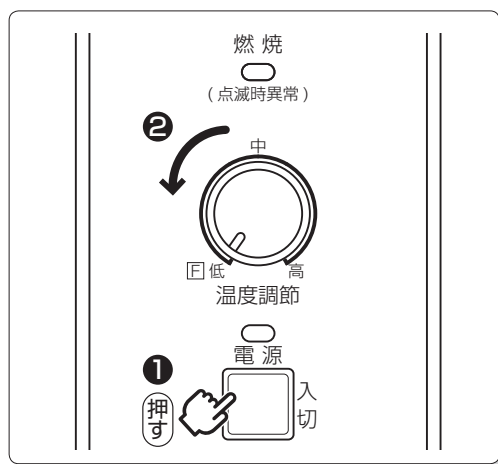
- 凍結予防を必ず行ってください。

9-1 凍結予防のしかた

- 冬季は暖かい地域でも、給水・給湯配管、暖房配管、機器内の水が凍結し、機器が破損することがあります。
以下の方法で凍結予防をしてください。

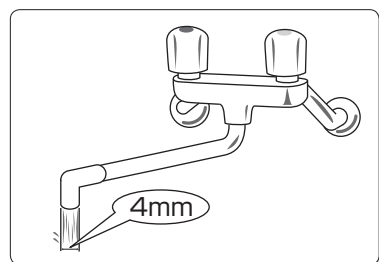
機器を運転させる方法（凍結予防運転）

- ① 電源ランプの点灯を確認する
 - リモコンの電源ランプが点灯していることを確認してください。
 - 消灯しているときは、リモコンの「電源スイッチ」を押してください。
- ② 温度調節をする
 - 温度調節つまみを回して「低」にしてください。



通水による方法

- ① リモコンの「電源スイッチ」を押して、電源ランプを消灯させる
- ② 水を出す
 - 給湯栓から1分間に400cc（太さが約4mm位の水量）の水を出してください。



お願い

- 流量が不安定なことがありますので、念のため30分ほど後にもう一度流量を確認してください。

長期間使用しないときのお手入れ

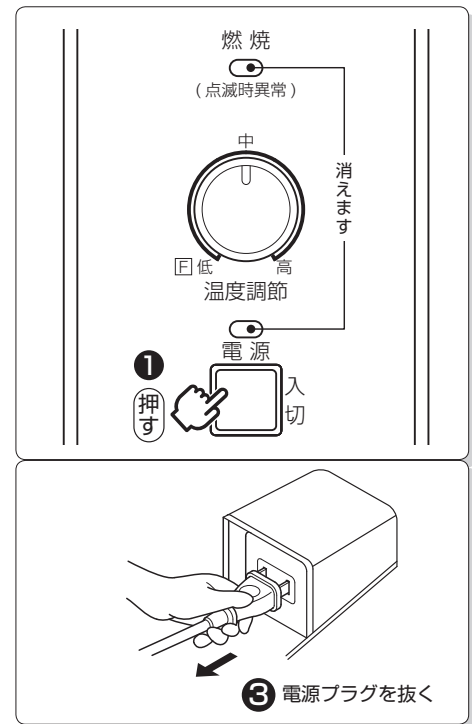
凍結予防のしかた

水抜きによる方法

■長期間使用しないときは、以下の手順で給湯側、または暖房側の水抜きをしてください。

- ① リモコンの「電源スイッチ」押して、電源ランプを消灯させる
- ② オイルタンクの送油バルブを閉める
- ③ 電源プラグをコンセントから抜く
- ④ 給水元栓を閉める
- ⑤ 給湯栓と排水栓を開いて水を抜く
- ⑥ 再度使用するときは
 - 13 ページ「4.使用前の準備」
 - 16 ページ「5.運転前の確認」

の手順で行ってください。



お願い

- 給水、給湯配管および減圧弁、逃し弁には、必ずお買い上げの販売店または、お近くのネポン営業所に依頼して凍結予防処置をしてください。
- 停電などで運転を停止したときは、運転前に必ず機器内と水道配管が凍結していないことを確認してください。
- 万一凍結したときは、水漏れや燃焼不良の原因になりますので溶けるまで待つか、凍結した部分にぬるま湯をかけて溶かし終えた後、給湯栓から水が出ることを確認してから運転してください。
- 暖房で使用する場合は、機器外の暖房配管に凍結予防ヒータや保温材などの施工をし、凍結予防処置をしてください。
- 停電などで運転を停止したときは、運転前に必ず暖房用循環ポンプを運転して、配管の凍結や水漏れがないことを確認してください。
- 作業についてご不明な点は、お買い上げの販売店、またはお近くのネポン営業所にお問い合わせください。

定期点検

10-1 定期点検について



注意

- 定期的に点検・整備を受けてください
整備不良がありますと、事故のおそれがあります。

この製品は、定期点検が必要です。

製品を安心して長くご使用いただくためには、法令点検(⇒29 ページ「11.法定点検」)のほかに、定期的な点検(有料)が必要です。

特に、法定点検後もご使用を継続される場合には、こまめに点検(有料)をお受けください。

定期点検のお申し込み、内容や手続きに関するお問い合わせは、お近くのネポン営業所、またはサービスセンターまでご連絡ください。

また、製品に同封の「点検・修理申込書」でも直接お申し込みいただけます。必要事項をご記入のうえ、FAX(フリーダイヤル)にてお申し込みください。

定期点検のお申し込み・お問い合わせは…

お近くのネポン営業所 または サービスセンター

FAXによる定期点検のお申し込みは…

FAX  0120 - 926413

長年ご使用の機器の点検をぜひ！



このような
症状は
ありませんか

- 運転中に異常な音や振動がする
- こげくさい臭いがする
- 煙突(排気筒)が赤熱する
- 燃料漏れ、臭いがする
- その他の異常がある

故障や事故防止のため、
電源プラグを抜いて使用
を中止してください。
必ずお買い上げの販売店
に点検修理を依頼してく
ださい。

法定点検

本製品は、消費生活用製品安全法（消安法）の長期使用製品安全点検制度[※]で指定される特定保守製品です。

※消安法 長期使用製品安全点検制度の法施行は2009年4月1日です。

◎特定保守製品とは…

「消費生活用製品のうち、長期間の使用に伴い生ずる劣化（経年劣化）により安全上支障が生じ、一般消費者の生命または身体に対して特に重大な危害を及ぼすおそれが多いと認められる製品であって、使用状況等からみてその適切な保守を促進することが適当なもの（消安法第2条第4項）」として指定された製品です。

◎法定の点検期間になったら点検を受けてください

- ・特定保守製品は、経年劣化による重大事故を防止するために、設計標準使用期間に基づいて製品毎に設定された点検期間中に点検を受けることが製品の所有者の責務として求められています（消安法第32条の14）。本製品に表示している点検期間になりましたら、必ず点検を受けてください。（点検は有料です）
- ・なお、法定点検後もご使用を継続する場合には、こまめに点検を受けることが本製品を安全にお使いいただくために必要となりますので、ご注意ください。
- ・法定点検は、その時点で点検基準に適合しているかどうかの確認であって、その後の安全を担保するものではありません。

◎法定の所有者登録をしてください

- ・特定保守製品の所有者は、この製品の製造（輸入）事業者が法定の所有者登録をすることが求められています（消安法第32条の8第1項）。製品に同梱している「所有者票」に記載している《所有者情報の登録方法》に従って、ご登録をお願いします。
- ・ご登録いただいた所有者情報は、消安法、個人情報保護法及び当社規定により適切な安全対策のもとに管理し、法定点検やリコール等の製品安全に関するお知らせをする場合以外には使用いたしません。

消安法の施行（2009年4月1日）前に製造した製品の所有者票は任意のご提供になります。ご提供いただいた場合は、2009年4月1日以降に製造した製品と同等に所有者情報を管理し、法定点検に準ずる点検やリコール等の製品安全に関するお知らせをいたします。所有者票のご提供（所有者登録）をしていただくことをおすすめします。

◎登録していただいた所有者情報に変更がありましたらご連絡ください

- ・所有者情報に変更があった場合、この製品の製造（輸入）事業者に変更の連絡をすることが求められています（消安法第32条の8第2項）。引越しなどで所有者情報に変更がありましたら、速やかに「所有者票」に記載している《所有者情報の登録方法》に掲げる点検連絡先にご連絡ください。ご連絡いただかない場合、法定点検やリコール等の製品安全に関するお知らせが正しく届かないことがあります。

◎法定の点検通知をいたします

- ・法定の所有者登録をしていただいた方に、登録情報に基づいて点検期間の開始前に法定の点検通知をいたします（消安法第32条の12）。
- ・点検期間については、製品本体の表示、もしくは製品に同梱している「所有者票（お客さま控え）」をご覧ください。

【本製品の設計標準使用期間について】

本製品は、業務用兼用を想定し、設計標準使用期間*を3年と算定しており、適切な点検をすることなく、この期間を超えて使用すると、経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。

※設計標準使用期間とは、標準的な使用条件の下で、適切な取り扱いで使用し、適切な維持管理が行われた場合に、安全上支障なく使用することができる標準的な期間として設計上設定される期間で、製品ごとに設定されるものです（消安法第32条の3）。「無料修理保証期間」とは異なるのでご注意ください。（無料修理保証期間は無料修理保証書を参照願います）

<設計標準使用期間の算定の根拠>

本製品の設計標準使用期間は、次のように設定しています。

- 1) 始期・・・製造年月
- 2) 終期・・・日本ガス石油機器工業会規格JGKAS A 201の「標準使用条件」に基づいて想定した以下の使用条件にて、当社において耐久試験等を行い、その結果算出された数値等に基づいて、「経年劣化により安全上支障が生ずるおそれが著しく少ないこと」を確認した時期

■使用条件（給湯）

項目	条件
1. 1日給湯回数	300回/日
2. 給湯1回の使用時間	1分ON / 1分OFF
3. 1日給湯使用時間（OFF時間含む）	10時間/日
4. 季節	中間期（春・秋）
5. 気温・湿度	20℃・65%
6. 電源電圧・周波数	100V・50 / 60Hz
7. 給水温度	15℃
8. 出湯温度	機器設定最高温度
9. 湯量	最大流量相当

<ご注意ください>

使用頻度、使用環境（使用水質含む）、設置場所が標準的な使用条件と異なる場合、本来の目的以外の方法で使用された場合は、記載の設計標準使用期間よりも短い期間で経年劣化が起きる可能性があります。これに該当するような場合は、32 ページ「本製品の点検等に関するお問い合わせ先」にご連絡ください。

◎点検について

法定点検は、ネポンまたはネポンが委託した事業者が行います。

【点検の内容について】

- ・特定保守製品について、点検期間中に点検基準に従って実施する有料の法定点検です。
- ・点検基準とは消安法省令に定められており、製品区分ごとに点検項目、点検内容が定められています。
- ・点検の結果は、点検結果表にてお知らせします。
- ・点検の結果、不適合となった場合には可能な限りの選択肢をお知らせします。この場合、整備（修理を含む）を行って使用を継続するかどうかはお客さまの判断となります。

【点検の料金について】

点検費用は、お客さまにご負担いただきます。また、点検の結果、整備必要となった場合は、別途整備費用（有料）が発生いたします。点検料金は技術料、交通費などを合計した金額となります。

なお、点検料金の設定の基準等や、点検要請に対して速やかに対応できるよう全国に配置しておりますサポート拠点については、下記のアドレスからご覧いただけます。

<http://www.nepon.co.jp/>

インターネットでご確認できない場合は、32 ページ「本製品の点検等に関するお問い合わせ先」にご連絡ください。

【本製品の点検の結果必要となると見込まれる整備用部品の保有期間】

整備用部品とは、法定点検の結果、不備が認められた場合に、安全性を確保（回復）させるために必要な部品であり、補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）とは異なります。

1. 点火・消火装置に関する部品：製造打切後10年
点火プラグ・イグナイター・CdS・フォトトランジスター
2. 水・湯・通路に関する部品：製造打切後10年
サーミスター・パッキン・Oリング
3. 安全装置に関する部品：製造打切後10年
感震器・ハイリミットスイッチ・温度ヒューズ

※補修用性能部品の保有期間については、39 ページ「15.アフターサービス」をご覧ください。

本製品の点検等に関する問い合わせ先

ネポン株式会社 サービスセンター

Tel: (046) 247-3195

【本製品の日常的に行うべき点検・お手入れ】

製品を安全にご使用いただくために、月一回程度は、お客さまで日常的に点検やお手入れを行ってください。

<点検・お手入れ前のご注意>

- ・リモコンの「電源スイッチ」を押して電源ランプを消灯させて、機器が完全に停止してから行ってください。
- ・製品の使用後は、製品や製品内のお湯が高温になっていますので、やけど予防のため製品が冷えてから行ってください。
- ・電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・オイルタンクの送油バルブを閉めてください。

<点検・お手入れの内容>

- ・取扱説明書の、日常の点検・お手入れに関する項目および、安全上の注意に関する項目をご参照ください。
- ・次のような症状があれば経年劣化の兆候と考えられますので、上記お問い合わせ先にご連絡ください。

- 運転中に機器から異常音が聞こえる
- 機器外観に異常な変色や傷がある
- 機器・配管から水漏れがある
- 排気トップ部にすすがついている

**警告**

●異常（異音・異臭）を感じたときや故障と思われるときは使用を中止し、お買い上げの販売店またはお近くのネポン営業所に連絡してください

異常のまま使用すると感電や火災、事故のおそれがあります。

■修理を依頼される前に、一度確認してください。

原因が分からないときや、故障が確認されたときは、必ずお買い上げの販売店または、お近くのネポン営業所にお問い合わせください。

12-1 故障診断（状況から調べる）

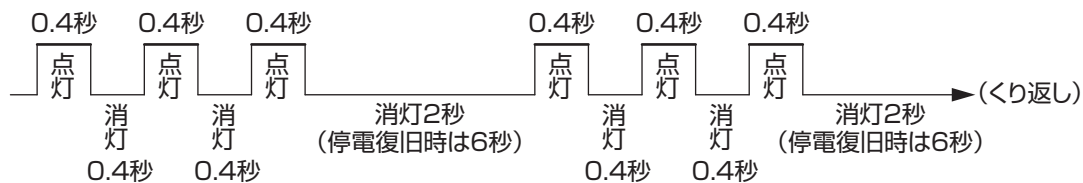
状況	ランプ表示	原因	処置方法
リモコンの電源スイッチを押しても電源ランプが点灯しない	電源ランプ消灯 燃焼ランプ消灯	電源プラグが抜けている	電源プラグをコンセントへ差し込む
		停電している	通電されるまで使用を中止する →21 ページ「6-2 停電発生時の処置」参照
		その他	お買い上げの販売店または、お近くのネポン営業所にご連絡ください
給湯栓を開いても、お湯（水）が出ない		給水元栓が閉まっている	給水元栓を開く
給湯栓を開くと、水は出るがお湯が出ない	電源ランプ点灯 燃焼ランプ 1回点滅（6秒間隔）	停電安全装置が働いている	→22 ページ「7-1 安全装置」参照
		灯油が切れている	オイルタンクに灯油を補給する
	電源ランプ点灯 燃焼ランプ 1回または2回点滅（2秒間隔）	オイルタンクの送油バルブが閉まっている	送油バルブを開く
		油配管内に空気が入っている	→15 ページ「4-3 油配管のエア抜き」参照
		オイルストレーナが詰まっている	→25 ページ「8-4.③オイルストレーナの掃除」参照
		灯油の中に水や不純物が混じっている	オイルタンクの水抜きをする、または良質の灯油に交換する
		その他	お買い上げの販売店または、お近くのネポン営業所にご連絡ください
お湯の出る量が少ない	電源ランプ点灯 燃焼ランプ点灯	減圧弁の水ストレーナが詰まっている	→25 ページ「8-4.②減圧弁の掃除」参照

状況	ランプ表示	原因	処置方法
お湯の温度が低い		お湯の温度調節が適切でない	→20 ページ「6-1.②温度を調節つまみを回して、熱交換器内の水温を調節する」参照
		その他	お買い上げの販売店または、お近くのネボン営業所にご連絡ください
その他			電源プラグを抜き、オイルタンクの送油バルブと給水元栓を閉めて、排水栓を開き水抜きをしてから、お買い上げの販売店または、お近くのネボン営業所にご連絡ください

12-2 次のようなときは故障ではありません

こんなとき	理由
給湯栓を開いても、すぐにお湯が出ない	機器から給湯栓までの距離があるため、お湯が出てくるまで少し時間がかかります。
燃烧しているときに、逃し弁からお湯が出る	水からお湯になるときの膨張分が逃し弁から出ます。故障ではありません。
お湯が白く濁って見える	水中に溶け込んだ空気が熱せられて、大気圧まで急速に減圧されることで、細かい気泡となって出てくる現象です。汚濁とは全く違い、無害です。
排気トップ・給排気筒から白い煙が出る	冬季に、吐く息が白く見えるように排ガス中の水蒸気が白く見えます。
給湯運転中にリモコンの燃烧ランプがときどき消灯する	給湯栓からのお湯が少ないと、断続運転することがあります。

12-3 故障診断一覧表



燃焼ランプ 異常時点滅パターン

例) 対震自動消火装置 (感震器) 作動 3回点滅 (2秒間隔)

状 況	リモコン 燃焼ランプ 点滅回数	処置方法
停電復旧したとき	1回 (6秒間隔)	→33 ページ「12-1 故障診断(状況から調べる)」参照
点火しないとき (不着火)	1回 (2秒間隔)	
点火してもすぐ消える (失火)	2回 (2秒間隔)	
対震自動消火装置 (感震器) が働いたとき	3回 (2秒間隔)	→22 ページ「7-1 安全装置」参照
過熱防止装置 (ハイリミット) が働いたとき	4回 (2秒間隔)	電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店または、お近くのネポン営業所にご連絡ください
温度過昇防止装置 (ハイカット) が働いたとき	5回 (2秒間隔)	
外部インターロックが働いたとき	7回 (2秒間隔)	
バーナコントロールリレーに異常があるとき	8回 (2秒間隔)	
残火・疑似炎を検出したとき	9回 (2秒間隔)	
缶水サーミスタが断線したとき	10回 (2秒間隔)	
過熱防止装置 (ハイリミット) が断線したとき	11回 (2秒間隔)	

部品交換のしかた



警告

- 減圧弁・逃し弁など、オプション品（別売品）もネポン指定品を使用してください
指定以外の部品を使用すると、事故・故障のおそれがあります。

■ 部品交換が必要なときは、お買い上げの販売店または、お近くのネポン営業所にご相談ください。

■ 修理は、修理資格者*のいる店などに依頼してください。

※修理資格者：（財）日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者（石油技術管理士）または、技術講習会修了者（点検整備士）

14-1 仕様

型式の呼び(型名)		ON-313	
区分<*2>		ON-313 15/16	ON-313F 15/16
種類	燃焼方式	圧力噴霧式	
	給排気方式	屋外用開放形 屋内用半密閉式強制排気形	屋内用密閉式 強制給排気形
	用途別方式	給湯又は暖房用	
	加熱方式	1缶1水路式	
	給水方式	水道直結式(減圧弁方式)又はシスターン式	
点火方式		高電圧放電点火	
使用燃料		灯油(JIS1号灯油)	
燃料消費量		44.4kW(4.3L/h)	
暖房効率		81%	
暖房出力		36.0kW	
連続給湯効率		81%	
連続給湯出力		36.0kW	
間欠給湯出力		13000kJ	
熱交換器容量		50L	
使用圧力		0.1MPa以下	
伝熱面積		1.2m ²	
外形寸法		高さ914mm 幅444mm 奥行702mm <*1>	
質量		約61kg	
電源電圧及び周波数		AC100V 50/60Hz<*2>	
定格消費電力	点火時	105/110W	120/130W
	燃焼時	85/95W	105/115W
給排気筒の型式の呼び		-	NB・FF-101A
排気筒・給排気筒の呼び		排気筒φ100mm	D80
給排気筒の壁貫通部の孔径		-	φ120mm
排気温度		260℃以下	
騒音レベル		約50dB	
ノズル	噴霧量	1.2GPH	
	スプレーパターン	ダンフォス社のKHタイプ	
	噴霧角度	60度	
配管径	逃し口	25Aオス(R1)<上面>	
	暖房行き口	40Aメス(Rp1-1/2)<左右面>	
	給湯口		
	暖房戻り口	40Aメス(Rp1-1/2)<左右面>	
	給水口		
	排水口		
電流ヒューズ		5A(ガラス管ヒューズ)	
安全装置		対震自動消火装置・過熱防止装置・燃焼制御装置・停電安全装置	
その他の装置		温度過昇防止装置	
付属品		送油管セット(φ8銅管・フアット・ホズジョイント・ホズバンド・ル・フエカ)、プラグ、異径ソケット 60Hz用給気ダンパ(ON-313F15のみ)、固定金具	

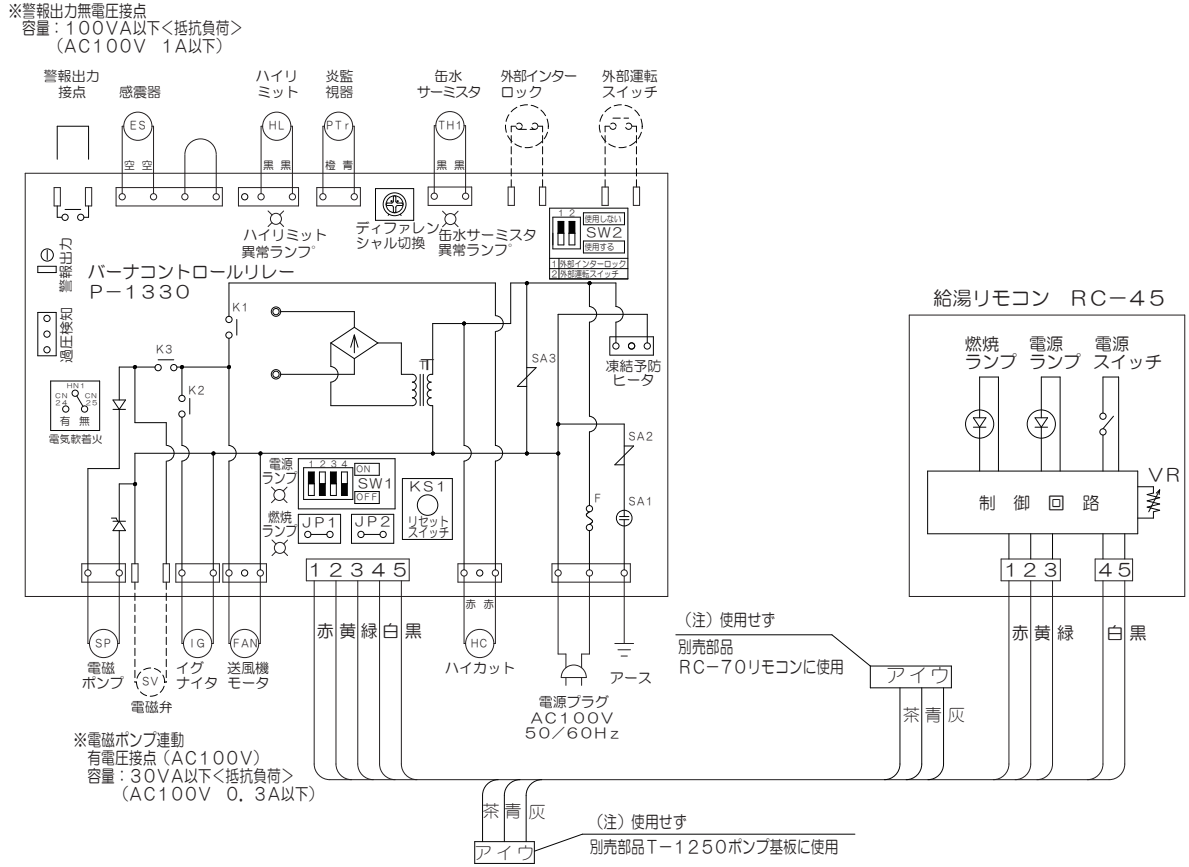
*1 本体のみの大きさです。

*2 末尾の「5」は50Hz設定、「6」は60Hz設定です。

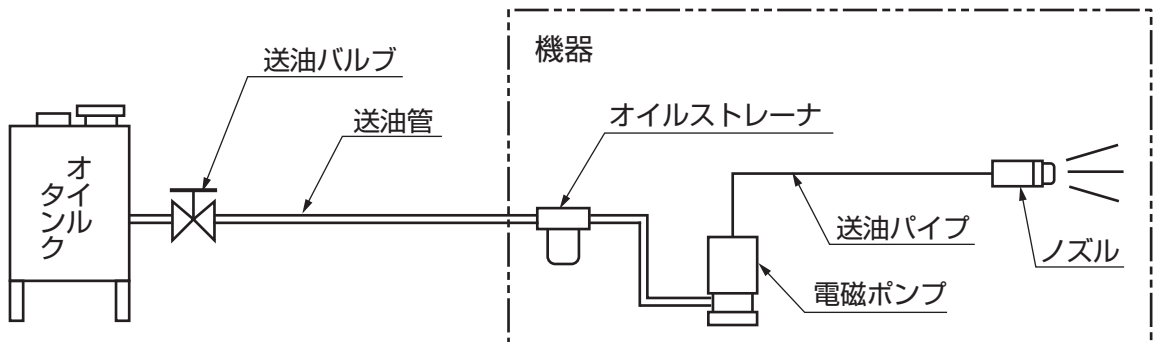
●仕様寸法などは改良のため、予告なく変更することがあります。

●単位はS I単位で表しています。

14-2 配線図



14-3 送油経路図



アフターサービス

15-1 保証について

- この製品の保証書は、取扱説明書の最終ページに記載しています。「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ずお確かめのうえ、お買い上げの販売店からお受け取りください。内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日から1年です。保証期間中でも有料となる場合があります。詳しくは保証書をご覧ください。

15-2 補修用性能部品の保有期間

この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後10年です。補修用性能部品とは、その製品の性能を維持するために必要な部品です。

15-3 修理を依頼されるとき

33～35ページ「故障・異常の見分けかたと処置方法」に従ってお調べいただき、なお異常があるときは、元電源を切って（電源プラグがある場合は、電源プラグを抜いて）、お買い上げの販売店、またはお近くのネポン営業所にご連絡ください。

製品に同封の「点検・修理申込書」でも直接修理をお申し込みいただけます。必要事項をご記入のうえ、FAX（フリーダイヤル）にてお申し込みください。

■保証期間中は…

修理に関しては保証書をご覧ください。保証書の規定に従って修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているときは…

修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

■修理料金の仕組み

修理代は技術料・部品代・交通費から構成されています。

技術料…故障した商品を正常に修復するための料金です。

部品代…修理に使用した部品代金です。

交通費…車両・移動に必要な料金です。

■ご連絡いただきたい内容

- 品名 ●型式
- お買い上げ日（年月日）
- 故障の状況（できるだけ具体的に）
- お名前 ●電話番号
- ご住所（付近の目印などもあわせてお知らせください）
- 訪問希望日

修理のご用命は…

お買い上げの
販売店

または


お近くの
ネポン営業所

ご相談

サービスセンター

☎(046) 247-3195

月曜日～金曜日 9:00～17:00

FAX  0120-926413

据え付け工事の確認



警告

● 据え付け工事が正しくされているか確認してください
不備があると漏電や火災のおそれがあります。

16-1 据え付け工事の確認

■ 据え付け・配管・電気工事は、関連する法規と、別冊の工事説明書に従って行われているか確認してください。

据え付け場所の選定

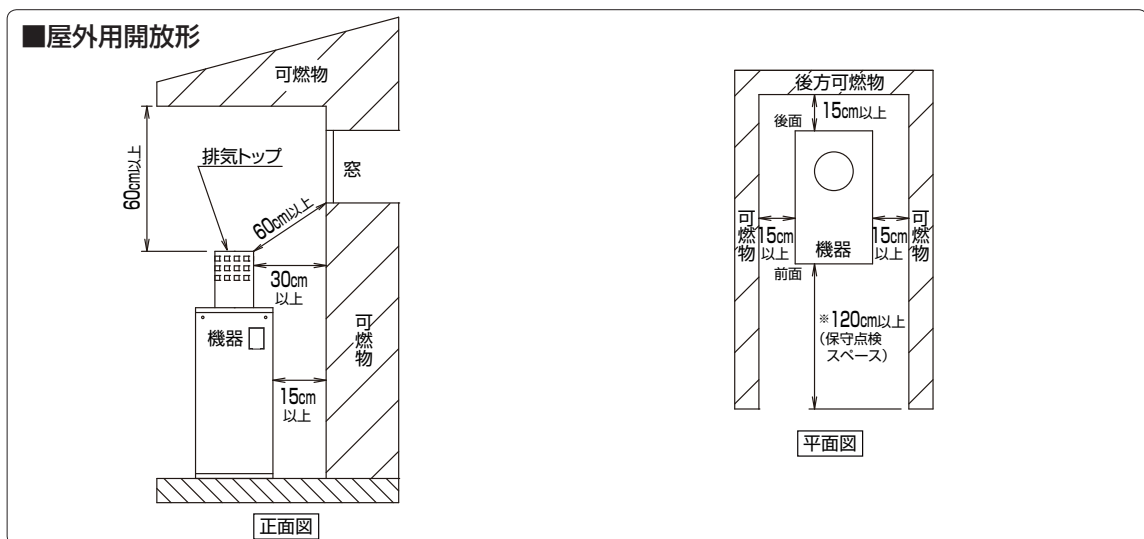
■ 据え付けには、火災予防条例、電気設備に関する技術基準などの法令基準があります。

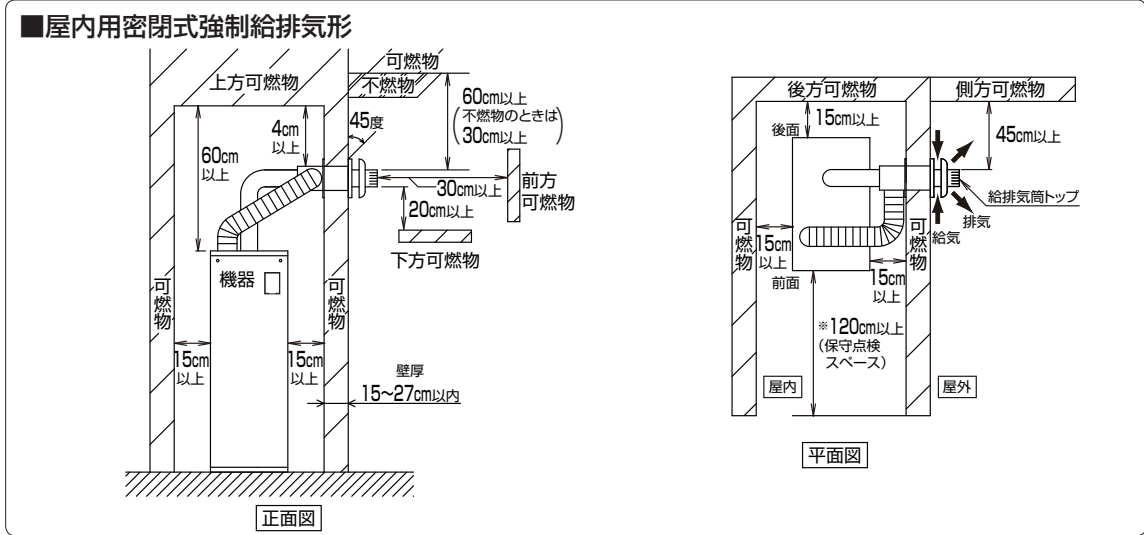
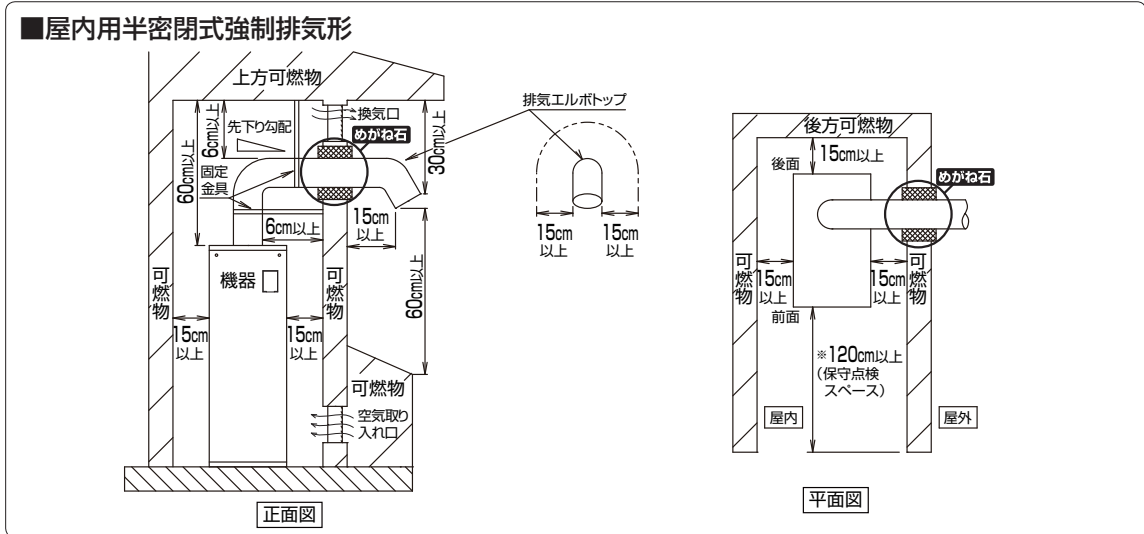
工事説明書（別冊）をよくお読みになり、お買い上げの販売店または、据え付け工事業者と相談して、設置場所を選定してください。

■ 可燃物との距離を離してください

○ 標準据え付け例

※ 機器前面は保守点検スペースとして、120cm以上あけてください。





騒音防止について

■設置場所によって、騒音は大きく変わります。騒音公害とならないように十分配慮して、設置場所を選定してください。

据え付け工事後の確認

■据え付け工事が終わりましたら、もう一度工事説明書（別冊）「8.工事完了後の確認」をお読みになり、正しく据え付けられているか確認してください。

試運転

■試運転は、必ずお買い上げの販売店または、据え付け工事業者と一緒に行ってください。➡工事説明書（別冊）「9.試運転」を参照してください。

移設・廃棄・譲渡



警告

- 移設する場合は、必ずお買い上げの販売店、またはお近くのネポン営業所へ依頼してください
不備があると感電や火災のおそれがあります。



注意

- 譲渡のときは取扱説明書を添付してください
お使いになっている機器を他に売ったり、譲渡するときは、新しく所有者となる方が安全な正しい使いかたを知るために、この取扱説明書を機器の目立つ場所にテープ止めしてください。
- 廃棄は専門業者へ依頼してください
廃棄する場合は必ず専門業者へ依頼してください。絶対に投棄などはいないでください。

不明のときは、お買い上げの販売店または、お近くのネポン営業所にご相談ください。

保証書

保証書		
※品名		
※形式		
※お客様	お名前	様
	ご住所	
	TEL	
保証期間	本 体	1年
	※お買い上げ日	
	年 月 日 から	
	年 月 日 まで	
<p>本書は、本書記載内容で、無料修理を行うことをお約束するものです。 ※印欄に記入のない場合は無効となりますから必ず記入の有無をご確認ください。 もし、記入がない場合には、ただちにお買い上げの販売店にお申し出ください。 本書は再発行はいたしませんので、紛失しないように大切に保管してください。</p>		
※販売店	住所・店名 TEL	
ネポン株式会社		

保証規定

1. お客様の取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意表示による正常なご使用状態で、保証期間中に故障した場合には、お買い上げの販売店に出張修理をご依頼のうえ、修理に際して本書をご提示ください。無料修理をさせていただきます。
 2. なお、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明な場合は、お買い上げの販売店またはお近くのネポン営業所にお問い合わせください。
 3. 次のような場合は、保証期間内でも有料修理となります。
 - ① ご使用上の誤り、不当な修理や改造による故障および損傷。
 - ② お買い上げ後の据え付け場所の移動、落下などによる故障および損傷。
 - ③ 火災、塩害、ガス害、地震、風水害、落雷、異常電圧およびその他の天災地変による故障および損傷。
 - ④ 本書のご提示がない場合。
 - ⑤ 本書にお買い上げ日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き変えられた場合。
 - ⑥ 車両・船舶など備品として使用した場合に生ずる故障および損傷。
 - ⑦ 本体銘板に記載された燃料以外を使用された場合の故障及び損傷。
 - ⑧ 機器や配管などの凍結による故障および損傷。
 - ⑨ 指定品以外の部品（膨張タンク、逃し弁など）を使用した場合および指導以外の誤った工事をした場合の故障および損傷。
 4. 本書は日本国内においてのみ有効です。
 5. ご転居の場合は事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
 6. ご贈答品など本保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理をご依頼できない場合には、お近くのネポン営業所にご相談ください。
 7. 離島および離島に準ずる遠隔地への出張修理を行った場合は、出張に要する実費を申し受けます。
- ※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて、無料修理をお約束するものです。従って、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、詳しくは➡39 ページ「15.アフターサービス」をご覧ください。
 なお、ご不明な場合は、お買い上げの販売店またはお近くのネポン営業所にお問い合わせください。

修理実施日	修理内容	担当者

お買い上げ年月日／ 年 月 日

お買い上げ販売店／

電話番号 () -

お客様へ

お買い上げ年月日、
販売店名を記入してください。
サービスを依頼される時、
お役に立ちます。

ネポン株式会社

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1丁目4番2号

URL : <http://www.nepon.co.jp/>